

5 番 八重樫龍介です。

通告に基づきまして次の事項についてお尋ねします。

最初に、約 4 か月後に行われます町長選挙への出馬について伺います。

9 月 1 日の新聞に、中居町長が、町政二期目に挑戦すると報道がされました。中居町長におかれましては、残りの任期をしっかりと執行し、町が目指す「希望の大地に未来の花咲くいわいずみ」づくりに向け、堂々と歩んでくださるようお願いいたします。

一期目の中居町政は台風災害からの復旧復興、そして現在も感染拡大の収束の兆しすら見えない、新型コロナウイルス感染症など災害との戦いでありました。その中においても本人が思い描いた「まちづくり」は十分に果たせたものと思われれます。

中居町長が自ら策定した町総合計画「岩泉町未来づくりプラン」の基本構想は令和 2 年度から 8 年度までであります。責任を持ってこの施策の実現に向け取り組まなければなりません。新型コロナウイルス感染症拡大の最中、様々な課題

が山積しております。

町長二期目への出馬に向けた基本姿勢と決意（公約）をお聞かせ願います。

次に雇用・教育機会の減少など人々の生活に大きな影響を及ぼしている、新型コロナウイルス感染症は、ワクチン接種により収束に向かうものと期待されていましたが、未だ収束の兆しすら見えない現状であり、町民は緊張の日々を過ごしています。

この状況下においても町では、産業、経済の活性化に向け施策を講じていかなければなりません。本町の人口は、昭和35年の27,813人をピークに減少の一途をたどり令和2年は8千人台まで落ち込み、高齢化率も45%を超えています。

町長は、直面している最重要課題は少子・高齢化、人口減少・過疎の問題であり、町の将来を見据え、移住・定住対策、関係人口の拡大に取り組むと述べています。そこで、つぎの事柄について伺います。

移住・定住事業促進の取り組みのひとつに空き校舎の活用があります。本町には9棟の空き校舎があり、来年度は、2

校舎増える予定です。そして、現在担当課において、廃校等施設利活用事業の検討が行われております。

関係者の要望、意見などが直接届きニーズがつかみやすい一次産業や観光業と比べ、移住・定住化対策事業、空き家・空き地バンク運営事業、廃校等施設利活用事業はニーズが容易につかみにくい側面があると思われれます。特にも廃校等施設利活用事業では、先の中学生議会の一般質問でも取り上げられていましたが、全国で様々な用途が出され、活用に向け競い合うが如く情報発信が行われております。

空き校舎の活用は喫緊の課題であり、他の自治体とは可能な限り差別化を図り実施プランを立案し、具現化に向け積極的に取り組んでいかなければなりません。現在考えられているプランを伺います。

私は、空き校舎の活用のひとつとして、和歌山県田辺市の限界集落にある空き校舎の活用方法を調査・研究すべきと考えます。

ここには、他人から干渉されない生活を望む若者たちが空き校舎をシェアハウスとして活用し 10 人以上が移住しています。遊休農地を使用して半自給自足の暮らしをしており、

地元の人の指導のもと養蜂業などに従事する人もいます。

本町も環境は類似しており、遊休農地とセットで応募し蕎麦やワサビなどの栽培と販売を奨励し、入居要件も入りやすく出やすい要件とするなど、他の自治体と差別化を図るべきと考えます。

また、このコロナ禍で、都会から地方移住に関心を示す若者が増加傾向にあります。このような考えをもつ人たちをターゲットにし、情報発信を行い空き校舎の活用を図るべきと思いますが、町長の考えを伺います。

5番 八重樫龍介 議員の御質問にお答えします。

はじめに、次期町長選挙への出馬についての御質問にお答えいたします。

本町に甚大な被害をもたらした平成28年台風第10号豪雨災害は、町史始まって以来ともいえる未曾有の大災害でありました。

数日前、丸5年が経過しましたが、今思い起こしても、当時の悲惨な状況が昨日のように目に浮かんでまいります。

私は、この危機的状況の克服に全力で取り組むため「台風災害からの復旧・復興の推進」「防災・減災体制の強化」「産業・経済の活性化」「健康、福祉、教育の充実」を町民の皆様にお約束をし、3年7か月、全力で町政運営に取り

組んでまいりました。

特に、最優先の課題である台風災害からの復旧・復興に全精力を注ぎ、町民の皆様の安全・安心な暮らしのための環境整備にまい進してまいりました。

現在の復旧・復興状況は、町民の皆様や町議会をはじめ、多くの皆様から御支援をいただき、一步一步着実に進んできたものと実感しております。

また、防災・減災対策の強化をはじめ、産業の復興、健康・福祉・教育の充実につきましても、具体的な施策を一つ一つ着実に積み重ね前に進めることができたものと考えております。

しかしながら、昨年来、新型コロナウイルス感染症が全国的にまん延し、本町においても町内外の人の流れがストップする中で、観光業や飲食業をはじめ

め、あらゆる産業が大きな影響を受け、今もなお、
厳しい状況が続いております。

このような中で、現在は、新型コロナウイルス感
染症から、町民の皆様の命と暮らしを守るための対
策と、経済支援策が喫緊の課題でありますことから、
集中的かつスピード感を持って対応しているところ
であります。

特にワクチン接種については、現在、対象者の接
種率が9割となり、一定の目途が付く段階まで来た
ものと思っております。

一方、これまでの10年間を振り返ってみますと、
東日本大震災、平成28年の台風災害、その後の相
次ぐ台風災害、さらには新型コロナウイルス感染症
と、まさに災害との闘いの連続でありました。

この間、人口減少や少子・高齢化が加速し、本町

が抱える潜在的かつ構造的な課題が顕著に表れ、過疎化に一層拍車がかかり、町内情勢も大変厳しいものがあると認識しておりますので、これらの課題を一つ一つ解決するために、次なる行動を起こす必要があると思っていますところでもあります。

具体的な取組といたしましては、農林水産業や畜産酪農などの一次産業の生産体制の強化、移住・定住の促進、命を守り産業経済に寄与する国道 455 号や 340 号、県道などの道路網の整備促進、アフターコロナを見据えた龍泉洞やふれあいらんど岩泉を核とする交流人口の拡大、介護予防や町民の健康づくりの強化、子育てや教育環境の充実などを重点施策に据えた持続的なまちづくりの推進であります。

また、国内外の情勢も変革の時を迎えております。デジタル化やSDGsの推進、さらには2050年のカーボンニュートラルの実現に向けた環境対策などについても積極的に進めていく必要があります。

いま岩泉町に求められていることは、町を豊かにするための「希望の光が見える政策の実行」であります。

度重なる災害、人口減少など負の連鎖による閉塞感を打破し、すべての町民の皆様に、生きがいや充実感を肌で感じてもらえる政策を、共に心を一つにして一步一步進めていくことだと思っております。

私は、この緑豊かな大自然の可能性と価値を信じ、活かしていくために夢を描き、しっかりとふるさと岩泉の大地を踏みしめ、努力をもって土を耕し、工夫をもって種をまき、英知をもって肥料を与えながら「岩泉町未来づくりプラン」を着実に実行し、希望の大地から未来の花咲くふるさと岩泉を築くため、来年1月の町長選挙に立候補することをここに表明させていただきます。

次に、廃校等施設の活用についてであります。これまでの検討の中では、様々なアイデアや具体的な活用案もありましたが、運営主体の選定や将来的な財政負担も考慮し、行政主体の実施・運営以外の方法についても幅広く検討を重ねてきたところであります。

その中で、当面の対策としては、広く全国から民間の希望者を募り、民間活力の活用による産業や地域の振興につなげる手法として「岩泉町廃校舎利活用希望者募集要項」を制定し、来月から町内外に広く情報を発信したいと考えております。対象施設につきましては、旧国見小学校など廃校舎6施設を予定しております。

また、旧小川小学校につきましては、歴史民俗資料館をメインに、地域コミュニティ機能も備えた施設整備として構想をまとめましたので、議会全員協議会におきましてその方向性を

御説明したいと考えております。

なお、議員御案内の和歌山県田辺市のシェアハウスにつきましても、移住・定住や交流人口の拡大、廃校舎利活用の事例として報道され注目を浴びている点は、本町が目指す施策にも多いに参考になるものと思いますので、調査・研究してまいりたいと考えております。

以上で答弁を終わります。